

石川県環境総合計画（案）に対するご意見募集の結果について

1. 募集期間：令和8年6月24日（水）～令和8年7月14日（火）
2. 寄せられたご意見：6件（ほかに3件）※同旨の意見は要約して整理

No	ご意見の概要	左記に対する考え方
計画の基本的事項		
1	奥能登豪雨では、河原の砂や石・岩ではなくヘドロのような泥が混じった洪水が流れてきたことから、土中環境の悪化が懸念される。 こうしたことを放置すれば、山林や森林が劣化するなど生態系全体に影響を及ぼすのではないか。	いただいたご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
2	水やエネルギーなどの自給率を高めていくことで、より安心して暮らせる石川県になっていくのではないか。	水やエネルギーについては、防災力向上等の観点から、住宅向け太陽光発電設備や蓄電池等の補助金制度等の取組により、再生可能エネルギーの導入を推進しているほか、特に能登地域においては、自立分散型のオフグリッド集落化に向けた取組への支援を行うこととしており、今後も各取組を進めてまいりたいと考えています。 その他のご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
3	県内には、様々な意見やアイデアを持つ方が多くいるので、アイデアを出し合うための話し合いの場などを設けてはどうか。	本県では、環境分野全般において、県・県民・事業者などの協働による総合体制によって、様々な環境問題に対応した環境の保全に関する施策の推進に取り組むこととしており、あらゆる場を通じて取組などの推進を図っていきたいと考えています。 いただいたご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。
4	手に職を持ち、実際に仕事をされている方々の話が大切だと考える。豊富な知識だけで、環境整備に携わっているのは良くないのではないか。	
第1章 地球環境の保全		
5	二酸化炭素の排出をゼロに近づける「ゼロカーボン」や「カーボンニュートラル」にとどまらず、すでに排出した二酸化炭素を削減していく「カーボンマイナス」を目指していくべき状況にあるのではないか。	本計画においては、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、温暖化対策等の取組を加速化することとしています。 まずはこの目標の達成に向けて、各取組を進めてまいりたいと考えています。
第2章 循環型社会の形成・第3章 自然と人との共生		
6	能登半島のみで行われているトキの放鳥と循環型農業、循環型社会の在り方について、能登と金沢以南を線引きせず、県全体で、トキが住める環境づくりを行う必要があるのではないか。	本県では、トキの生息環境整備を進めるため、「化学肥料、農薬の削減」に加え、水田で餌となる生きものを育む取組や冬場でもトキが水田で餌を採れるようにする取組などの「トキの餌場環境整備」を実践する米作り

		への認証や、社会環境整備として、トキ観察マナーの周知や環境教育を行っています。 その中で、まずは放鳥が実施された能登において、トキが定着するよう各取組を進めてまいりたいと考えています。
--	--	--